

日本農村カデザイン大学第7期講師プロフィール

結城 登美雄(ゆうき・とみお)氏

民俗研究家。

山形県生まれ。

山形大学卒業後、広告デザイン業界に入り、(有)タス・デザイン室を設立。都市化する仙台の記憶を残す作業を行うことに始まり、民俗研究家として東北の村々を歩き続け「地元学」を提唱。

現在は、「鳴子の米プロジェクト」などに関わる。

著書に「山に暮らす・海に生きる」(無明舎出版)ほか。2004年芸術選奨文部科学大臣賞受賞(芸術振興部門)。

新妻 弘明(にいつま・ひろあき)氏

東北大学大学院環境科学研究科教授(エネルギー・環境科学)。

工学博士。地下計測、環境計測、地熱エネルギー利用技術、再生可能エネルギーに関する研究に従事。エネルギーの地産地消 EIMY (Energy In My Yard) の概念を提唱するとともに、EIMY 実現のための一連の研究プロジェクトを実施中。現在再生可能エネルギー国際会議国内諮問委員会委員、地中熱利用促進協会顧問などを務めている。

中澤 二郎(なかざわ・じろう)氏

新日鉄ソリューションズ(株)人事部部長・高知大学客員教授

1951年群馬県生まれ。新日本製鐵(株)にて鉄鋼輸出、生産管理、労働部門などを経て、新日鉄ソリューションズ発足に伴い初代人事部長に就任。30年近くにわたって、人事・労働全分野に携わる。面接・面談者はのべ1万人に及ぶ。2011年4月より高知大学客員教授に就任。著書「『働くこと』を企業と大人にたずねたい」(東洋経済新報社刊)

山根 多恵(やまね・たえ)氏

温泉津温泉 旅館吉田屋女将、地域維新グループ代表

山口県出身。山口大学在学中からインターンとして地域活性化事業に関わる。卒業後、島根に地域活性化アドバイザーとして来たのをきっかけに、温泉津の老舗温泉旅館・吉田屋から若女将就任の要請を受け、未経験の旅館業を手がけて繁盛旅館に仕上げた。現在は若女将を後輩にゆずり、女将として活躍する一方、若女将塾を主宰している。

上垣 喜寛(うえがき・よしひろ)氏

ジャーナリスト

インターネットメディア《THE JOURNAL》編集記者。アジア農民交流センター事務局。国際有機農業映画祭運営委員。1983年大阪府泉南市で生まれ埼玉県川越市で育つ。2005年早稲田大学教育学部卒業後、石川県の液晶モニターメーカーに勤務し、2008年に退職しフリーに。関心事は農業、食、政治など。『季刊地域』(農文協)等に執筆する。

松沢 政満(まつざわ・まさみつ)氏

有機農業の里「福津農園」主宰

静岡大学農学部農芸化学科で応用微生物学を専攻。卒業後14年間食品会社の研究開発に携わる。1984年に帰農し「福津農園」を主宰、有機農業を実践してきた。農薬・化学肥料などを使わず、微生物や草など自然を活かした農法に徹している。農業を営む傍ら、環境問題など社会活動にも取り組んできており、地元新城市市会議員なども歴任してきた。

内山 節(うちやま・たかし)氏

哲学者。

東京都生まれ。NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。東京と群馬県の山村・上野村とのあいだを往復しながら、存在論、労働存在論、自然哲学、時間存在論を軸とした哲学の研究をすすめる。著書に「自然と労働」(農文協)、「『里』という思想」(新潮社)など。

星 寛治(ほし・かんじ)氏

農民・詩人

1935年山形県高島町に生まれる。農民文学誌「地下水」同人、日本有機農業研究会幹事、たかはた共生塾顧問。著書「滅びない土」「はてしない気圏の夢をはらみ」「種を播く人」(などの詩集)と、「農からの発想」「農業新時代」「農から明日を読む」(などのエッセイ)、「北の農民、南の農民」(書簡集)、「複合汚染その後」(共著)などがある。